

# 安全管理プロジェクト活動報告

降矢久美子 加藤美佐 小山哲夫 佐藤亜矢子 杉山孝雄 設楽浩明 田中協子 徳永 誠  
物質・生命科学系

## 1. 概要

平成 16 年度の国立大学法人化以降、安全管理に対する意識の向上とともに大学内の作業環境は大きく改善され、技術職員が安全管理業務に携わることも増えてきた。しかし、埼玉大学の安全管理における技術職員の役割は明確とはいえず、十分な支援を行うための体制も整っていない。そこで我々は、本学の安全管理に技術職員が貢献するための体制を確立することを目的として、本プロジェクトを立ち上げ、これまでに以下のような活動を行ってきた。

- 1) 近隣他大学等の技術職員との情報交換や意見交換のための「北関東技術系職員安全管理ワークショップ」の開催
- 2) 「ヒヤリハット事例」の収集と公開
- 3) 理工学研究科および関連するセンターで購入する毒劇物の、薬品管理システムへの一括登録

今年度は、これらの活動を継続、発展させ以下に報告する活動を行った。

## 2. 今年度の活動内容

### 2-1 毒劇物の一括登録

総合技術支援センターでは平成 24 年 10 月より、理工学研究科および関連するセンターの毒劇物の、薬品管理システムへの一括登録を行っている。登録業務は、技術職員が当番制で担当しており、平成 25 年 1 月から 12 月まで一年間の登録件数は 1319 件、月平均登録件数は 110 件であった。

今年度は、登録体制や登録時の不測の事故に対する安全対策などをさらに整備したうえで、6 月から教育学部で購入した毒劇物につ

いても一括登録を開始した。これにより、埼玉大学で購入される毒劇物は、すべて総合技術支援センターで一括登録されることとなった。

これまで教育学部の研究室では、薬品使用者が少ない、使用方法がわからないなどの理由から、必ずしも薬品管理システムの利用に積極的ではなかった。そこで、要請があった研究室に出向いて、教員だけではなく実際に薬品を使用する学生も含めて、個別にシステムの使用方法を説明した。

一括登録を開始したことにより毒劇物の登録漏れはなくなった。しかし、納品後の毒劇物については、発注者による薬品管理システム上の保管場所変更が行われないなど、適正に管理されていないケースが見受けられる。適正な毒劇物管理のためにも、保管場所変更の徹底など、薬品管理システムの適正な利用をユーザーにはたらきかけていく必要がある。

この活動に関連して、9 月に鳥取大学で開催された「機器・分析技術研究会」の安全管理をテーマとした特別セッションにおいて、「埼玉大学における薬品管理について」と題して徳永誠技師が発表した。参加者から、毒



図 1 「機器・分析技術研究会」発表の様子

劇物一括登録実施の体制づくりや方法について、多くの関心と質問が寄せられた。

## 2-2 安全管理ワークショップ

大学における安全管理について考えるうえで、他の大学など高等教育機関との情報交換は必要不可欠である。

そこで、昨年に引き続き、9月19日に「第2回北関東地区技術系職員安全管理ワークショップ」を埼玉大学において開催した。昨年度の参加校に、新たに横浜国立大学、小山工業高等専門学校が加わり、9校から50名が参加した。

今回は、「各大学における安全管理活動」をメインテーマとし、埼玉大学からは、「埼玉大学における薬品管理のその後」と題し、田中協子専門技術員が毒劇物の一括登録について発表した。

ついで、群馬大学、茨城大学、長岡技術科学大学、宇都宮大学から、化学物質のリスクアセスメントや排気設備の保守など、各大学で技術職員が携わっている幅広い安全管理活動についての発表があった。フリーディスカッションでは、各大学等の現状や、発表内容についての意見交換が行われた。どの発表に対しても、多くの質問が寄せられ、活発な討論がなされた。

参加校からは、今後も幅広い安全管理活動をテーマとして、ワークショップを継続していきたいとの要望が寄せられた。



図2 安全管理ワークショップの様子

## 2-3 「化学物質の安全管理かわら版」

埼玉大学は、平成25年10月に教育研究機

関化学物質管理ネットワーク(ACSES)に加入した。このネットワークは、教育研究機関における化学物質の総合的な安全適正管理の促進を目的としており、活動の一環として「ACSES ニュースレター」を配信している。

本プロジェクトでは、この「ACSES ニュースレター」の中から、必要な情報や役立つ情報を選び、「化学物質の安全管理かわら版」として編集し、11月より月一回の定期発行を開始した。配布先は、理工学研究科と教育学部の実験系講座の教員および技術職員、本部事務局など全学にわたり、発行部数は約300部である。また、「ACSES ニュースレター」そのものも、学内限定でWeb上に公開し、閲覧できるようにしている。



図3 化学物質の安全管理かわら版

## 3. まとめ

今年度は、教育学部の毒劇物の一括登録と「化学物質の安全管理かわら版」の発行を新たに開始した。これらは、大学全体の安全管理に対する貢献の第一歩である。これらの活動を通して、総合技術支援センターが安全管理についても対応することを学内に知らせるとともに、これまで接点のなかった教育学部の教員、あるいは事務局の職員に対してもアピールでき、我々が活躍する場を広げることができたと考える。

今後は、これまで行ってきたヒヤリハットの収集・公開をさらに発展させ、集めた情報を学生向けの安全教育支援にも利用できるような体制を整えたい。また、毒劇物だけでなく一般試薬も含めた薬品の適正な管理の支援や、安全管理相談窓口といった新たな取り組みについても考えていきたい。